

「人と防災未来センターニュース】

[人と防災未来センターニュース]

発行/ 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

「ひょうご安全の日 1.17のつどい」開催	1
災害メモリアルKobe2007.世界で行動する先輩と災害を学ぶ	2
「国際防災・人道フォーラム2007」開催	3
1.17企画「よみがえりの人形6434体」展示/絵手紙	4
展	5
防災未来館企画展/ひと未来館・冬企画シリーズ	6
資料室からのお知らせ	7
来館者の声/防災Q&A	8



阪神・淡路大震災の経験と教訓をいつまでも忘れる ことなく、安全で安心な社会づくりを推進するため、平 成19年1月17日、人と防災未来センターで「ひょうご

安全の日 1・17のつどい」が開催されました。

長田執県議会議長の言葉で開会し、正午に出席者 全員で犠牲者へ黙祷を捧げました。主催者を代表して 井戸敏三兵庫県知事が「これからも、創造的復興の積 み重ねを礎に、県民の参画と協働のもと、安心な兵庫、 安全な兵庫の基盤を確かなものとし、『元気ひょうご』 への飛躍をめざす」と誓いの言葉を述べました。 続い て、県民を代表して新成人の足立雅人さんと森夕紀さ んが「県民のことば」を述べ、神戸市立なぎさ小学校の 児童が「しあわせ運べるように」を合唱。河田惠昭県民 会議企画委員長が「1・17ひょうご安全の日宣言」を読 みあげた後、参加者らが白いカーネーションを献花し ました。

『1.17ひょうご安全の日宣言』

震災から12年が経った 私たちは多くの人たちに 震災の教訓を知ってもらいたいと願ってきた しかも 世界中の人々にも早く伝えたい 阪神・淡路大震災の教訓が 被害の軽減に役立ってほしい

阪神・淡路大震災は 野島断層が起こした災害 インドネシア・ジャワ島中部地震も同じタイプ 地震が起こる確率が小さいからといって無視してはいけない 被害の大きさを思い知らなければならない

風水害も忘れてはいけない災害 地球の温暖化が原因して 超大型のハリケーン 台風による被害や 記録破りの大雨 豪雨を経験した

私たちは災害の時代に生きている

だから 地震や風水害がいつ起きても 被害が大きくならないようにし よう

いろいろな災害の教訓が災害文化を育て 人も地域も強くなっていく

災害を「ひとごと」と考えてはいけない 災害に対し 私たちは備えなければならない これは阪神・淡路大震災の教訓である

伝えよう もっと伝えよう阪神・淡路大震災の教訓を 活かそう もっと活かそう阪神・淡路大震災の教訓を 震災の教訓はかけがえのない犠牲を払って得た 私たちの貴重な財産なのだから

2007年1月17日

「災害メモリアルKobe2007~世界で行動する先輩と災害を学ぶ~」開催

1月13日(土)、人と防災未来センターにて「次世代の育成」「世代間交流による語り継ぎ」「地域間交流」を通じて市民の防災力を高めることを目的としたイベント「災害メモリアルkobe」を開催しました。

第2回目となる今回は「未来へ語ろう私たちの体験〜世界で行動する先輩と 災害を学ぶ〜」と題し、海外の被災地で活躍する3人の学生が、イベントに先立 ち神戸市立なぎさ小学校・渚中学校の児童・生徒に特別授業を行いました。

イベント当日の午前中は、特別授業を受けた小・中学生がその感想をまとめた 作文を発表しました。

午後からは「行動しよう世界でー原動力・課題・将来ー」をテーマに、特別授業を行った3人の学生によるパネルディスカッションを行いました。

コーディネーター: 諏訪清二(兵庫県立舞子高校教諭) パネリスト: 塚澤幸子(早稲田大学大学院2年生) 岸本くるみ(神戸学院大学2年生)

中野元太(立命館大学1年生)





阪神・淡路大震災から12年が経過し、震災の年度 に生まれた子ども達がこの春小学校を卒業します。こ のイベントを通じて、「震災第2世代とも言うべき若い 人たちが今、神戸の地震についてどう考え、災害支援 でどういった活動をしているのか、震災の記憶がほと んどない今の神戸の子ども達が、先輩方の思いと行動 をどう考え、震災を経験したまちで学ぶ自分たちが、今 後どのように行動していこうと考えるのか」について、 思いを共有することができました。

人と防災未来センター友の会 「炊き出し大会」開催

人と防災未来センター友の会では1月13日(土)、災害メモリアルKobeにあわせて「炊き出し大会」を開催しました。 メニューは豚汁と非常食のアルファ化米です。 災害メモリアルKobeの参加者をはじめとする沢山の人が会



場を訪れ、用意した500食が完食されました。

「国際防災・人道支援フォーラム2007」開催

国際防災・人道支援協議会(DRA)らが主催する「国際防災・人道支援フォーラム2007」が、去る1月22日(月)にJICA兵庫国際センターにて開催されました。

DRAは、神戸東部新都心を中心に立地する防災関係機関らで構成され、それぞれの機関が有機的な連携を図り、その機能を効果的に発揮することで国際的防災拠点の形成を図ることを目的として、平成14年10月に設立されました。当フォーラムはDRAが毎年この時期に開催しているもので、阪神・淡路大震災の教訓を語り継ぐことをテーマにしていた前回までをふまえ、4回目となる今回は、「防災教育の取り組み」と題して開催。協議会構成員をはじめ、防災、教育の関係者など約80名が参加しました。

基調講演では、危機管理対策アドバイザーの国崎信江氏が、家庭や主婦の視点から、家族という大切な命を守る「防災教育」の手法について講義を行いました。その中で同氏は、自身の防災教育のプログラムである「たまごの殻でガラス飛散体験」などを紹介し、「子供たちの興味を引き出し、体験・経験をすることでいざという時に行動がとれるようにすること。一過性の学習や形式的な訓練ではなく、自分で判断し、守り生き抜く力を養うことが必要」と訴えました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、京都大学防災研究所助教授の矢守克也氏が「地域をつなぐ防災教育」「世代をつなぐ防災教育」など防災教育の7つの視点を紹介するとともに、パネリストにそれぞれの防災教育のキーワードを問いかけました。これを受け、国内のみならずスリランカ等海外でも防災教育の活動を行う立命館大学の中野元太氏は、「生徒たちが主体的に実感できる、一目でわかる防災教育をめざすべき」だと提言しました。一



方、神戸大学大学院に留学するインドネシア人のヨン・アルサル氏及びムルヨノ氏が、小学生向けの防災教育用絵本を翻訳して祖国の子供たちに伝えようと取り組む事例を紹介した他、ムルヨノ氏は「楽しみながら防災を学べたら一番」と、アルサル氏は「防災教育を通じて防災に強いまちづくりが必要だが、ほとんどの途上国は知識や財源が乏しいのが現状。そのために優先順位を立て、学校内外を問わず子供たちへの教育に重点をおくべき」と訴えました。

同協議会では、「震災から12年が経ち、この神戸の地でも震災を経験していない人が増えてくるなど、次第に風化が始まっている。災害多発時代と言われるこの時代にこそ、風化を防ぎ、今後の防災教育のあり方について議論を深め、次世代に伝えていく必要がある。このフォーラムを通じて、その重要性を訴えていきたい」としています。 国際防災・人道支援協議会(DRA)らが主催する「国際防災・人道支援協議会(DRA)らが主催する「国際防災・人道支援フォーラム2007」が、去る1月22日(月)にJICA兵庫国際センターにて開催されました。



●お問い合わせ先●

国際防災・人道支援協議会事務局 (人と防災未来センター事業課)

(078) 262 - 5068 http://www.dri.ne.jp/

※このフォーラムの内容は、改めて ホームページに掲載する予定です。

1・17企画「よみがえりの 人形6434体」展示

一昨年12月に当センターを修学旅行で訪れた熊本市立東町中学校3年生262人の生徒達はセンターを訪れた際、語り部ボランティアの長岡照子さんから、震災で6434人の尊い命が犠牲になったことを聞き、長岡さんの「自分の命をがむしゃらに守ってね。ほかの人の命も大切にすることに繋がるから」というメッセージに大きな感銘を受けたそうです。地元に戻った生徒達は何が出来るかを考え、2か月後の学習発表会のテーマを「神戸から未来を学ぶ」と設定し、「よみがえりの人形」を制作することとしました。そして他学年の生徒達にも協力を呼びかけ、2か月がかりで6434体のよみがえりの人形を完成させたのです。

子どもたちの「ひとりでも多くの方々に見てもらいたい」という熱い思いに応え、東町中学校の協力をいただき、当センターで1月16日から21日まで一同に展示し、多くの来館者にご覧いただきました。



防災未来館企画展示「しっかりと未来につなげよう! 忘れない、1・17の絆 絵手紙展」を開催

平成19年1月10日から1月28日まで、「しっかりと 未来につなげよう! 忘れない、1·17の絆 絵手紙展」を 防災未来館1階ロビーで開催しました。

この催しは、フィリピン語で"笑顔"を意味するNPOニィティが主催で、防災意識の必要性を発信するため最もふさわしい場所である当館で実施されたもの。2006年中、神戸近隣各地で開催された絵手紙教室や絵手紙講習にご参加いただいたみなさんの絵手紙作品約150枚が一堂に展示され、防災や減災、自助・共助の大切さ、命の尊さ、大切な人へなどといったさまざまな想いが寄せられた作品が並びました。

NPOニィティ代表の前川博子さんは「絵手紙は国籍の違いを超えて真心がふれあえるところがいい」とその魅力を語り、「フィリピンの留学生も母国の友人やお世話になった人に感謝の気持ちとして届けています」と紹介しています。

この展示会終了後には、作品は一つ一つが実際に郵 便はがきとして投函され、それぞれの宛先に想いをの せて届けられました。



ふさわしい場所である当館で実施されたもの。2006 年中、神戸近隣各地で開催された絵手紙教室や絵手紙 講習にご参加いただいたみなさんの絵手紙作品約15

防災未来館企画展

「世界の自然災害に学ぶ~"いのち"と"くらし"をまもる

備えとくふう~」を開催中

1月16日(火)から4月15日(日)まで、「世界の自然災害に学ぶ〜"いのち" と"くらし"をまもる備えとくふう〜」を防災未来館2階で開催しています。

この催しは、現在地球上で多発するさまざまな自然災害の実情や国内外の 防災への取り組みを紹介し、今後起こりうる自然災害への対応について考える 機会を提供しようとするもの。

「自然災害って何だろう?」のコーナーでは、雪、雨、風、海、気候、地震、火山の7つに分類し網羅的に解説。インド洋大津波(2004年)やハリケーン・カトリーナ(アメリカ南部・2005年)など11の資料映像を約6分間にまとめた"世界の自然災害ダイジェスト"には、神戸市の女性も「人が荒波にさらされる様子の映像に息を飲んだ」と見入っていました。

また、2001年から昨年までの主な自然災害をわかりやすく紹介するコーナーのほか、アジア防災センターや国連人道問題調整事務所といったHAT神戸に集積する国際機関の活動事例、津波の到達速度や高さを学べるQ&A、液状化実験・耐震模型なども展示しています。



阪神・淡路大震災のVTRに見入る来館者ら



世界中で起きた自然災害に関する情報が一覧できるコーナー

ひと未来館・冬企画シリーズ

"ことば"はかけがえのない宝物。文芸企画「ことばの旅」を開催中



早口ことばづくりに挑戦する親子。



さまざまなことば遊びが楽しめる。

1月23日(火)から3月11日(日)まで、ひと未来館・冬企画シリーズ「"ことば"はかけがえのない宝物。文芸企画『ことばの旅』」をひと未来館3階ふれあいステージで開催しています。

この催しは、漢字検定や正しい日本語、脳トレと昨今流行の兆しのある「ことば」をテーマにした参加体験イベントで、コミュニケーションの基本となることば遊びを通じて、ことばの持つ魅力や大切さに気づいてもらうとともに、自ら考え発信する力を身につけてもらおうと実施するものです。

会場は今年の一文字や川柳遊び、神戸文学など8つのコーナーに分かれており、多彩なことば遊びができます。「回文セリフ」コーナーでは上下どちらから読んでも同じ意味になる17種類の回文を展示。「軽い、新聞紙いるか?」「だんな、ココアさぁ、ここなんだ」といったひと未来館スタッフが考え抜いた名作に、訪れた人も「なるきをきるな」「たけやぶやけた」と投稿していました。

また、3月11日(日)午後2時~4時には神戸出身の川柳作家・やすみ りえさんの「想いを伝える5・7・5 はじめての川柳ワークショップ」を開催(先着40名様・入場無料)。会場はいずれも防災未来館1階ガイダンスルーム2で。ぜひ、皆様お誘いあわせの上お越しください。

※防災未来館企画展「世界の自然災害に学ぶ」、ひと未来館文芸企画「ことばの旅」の ご見学はそれぞれ入館料が必要です。詳しくは下記掲載の当センターホームページへ。

http://www.dri.ne.jp

資料室からのお知らせ

1. 企画展「世界の自然災害に学ぶ」開催にともない、資料室で関連図書の展示をしています!

防災未来館2階で現在開催中の企画展「世界の自然災害に学ぶ」にあわせ、 資料室では世界の災害、報告書、児童書など関連図書のリストを作成し、展示付 近及び資料室で配布しています。また、資料室ではリストに掲載している関連図 書の展示を行っておりますので、企画展ご見学後はぜひ資料室にお立ち寄りく ださい。

資料室には無料で入室いただけます。



2. 二次資料の点数が三万点を超えました!

センターが所蔵する二次資料(図書、ビデオなどの刊行物資料)については、阪神・淡路大震災や防災に関するものを中心に現在も継続的に収集・受入れを行っており、今年度の秋に三万点を超えました。 テーマに特化した資料を備えた資料室は、震災関連の研究をしている方、防災関係の調べ物をしている一般利用者の方に、充実していて使いやすいとのお声をいただいています。

今後も震災や防災に関する資料について、積極的に収集活動を行ってま いります。



3.「阪神・淡路大震災 犠牲者の記録」のご案内

2007年1月17日に阪神・淡路大震災から12年が経過し、同日のセンター無料観覧日には、資料室にも多数の来室があり、震災の記憶を風化させないようにと、資料を熱心にご覧になる姿があちこちで見られました。

資料室でご覧いただける記録のひとつに「犠牲者の記録」があります。これは震災で亡くなられた方の遺族に対し行われた聞き取り調査の記録です。調査は神戸大学工学部建設学科および都市安全研究センターの研究室が主体となって行われています。

死者数などの統計だけではわからない、亡くなられた方お一人お一人のそれぞれの状況を詳細に記録し、後世に伝えようとするこの取り組みは現在も継続して行われており(平成17年度調査:7件)、それらのうち遺族の方から了承を得られた記録を、資料室にある専用の端末でご覧いただけます。

また、この取り組みや記録の一部については、図書『大震災を語り継ぐ』(神戸大学<震災研究会>編)でもお読みいただけます。

●「犠牲者の記録」の内容に関する お問い合わせは、

(財)ひょうご震災記念 21世紀研究機構 調査課 TEL/(078)262-5570 まで。





来館者の声

防災未来館

私は地震の年に生まれたので、阪神・淡路大震災を体験した事がありません。今日、ここへ来てみて、人間って凄いなぁと実感しました。辛い事があっても、立ち直り、前を向いて進む、強い力がある事を感じました。私がこの街で産まれた年に6000人以上の人達が亡くなりました。私はその人達の分、頑張って強く生きたいです。

(11歳 女性 兵庫県)

実際の映像やドキュメンタリーを通して改めて、 地震の恐怖を知りました。このような悲惨なことだ とわからず、思わず涙が溢れました。私は大きな地 震を体験したことがないので、自分や周りの人達 の安全を確保することを備えておかなくては・・・と感じました。そして、家族や友人の大切さが身にしみました。どれだけ自分が家族に支えられて生活しているのかと思い知りました。宮城に地震が来たら、周りの人々と助け合って神戸のようにきれいな町にしたいです。最後にこのことは忘れてはいけないし、この体験を無駄に出来ないと思いました。(17歳 女性 宮城県)

素晴らしい展示です。今後もずっとこの展示が 続いて後の世代へ受け継がれるように!特に今の 神戸の姿で見ていたのでは、何もわかりません。こ の展示が続くことを切に望みます。

(66歳 男性)



津波予報・津波情報について教えて下さい。





2006年11月15日と2007年1月13日に千島列島沖で地震が発生し、津波警報が北海道・東北地方沿岸部等に、沿岸地域には避難勧告が出されました。この際、実際に避難所へ避難した人はわずかだったと言われています。これは、これまでに出された津波予報よりも実際に観測された津波が小さいことがたびたびあったため、津波予報に対する信用が低下しているからだと指摘されています。

気象庁では、津波の発生の恐れがある場合に、地震が発生してから「約3分」を目標に津波警報または津波注意報(下表参照)を発表します。津波予報・津波情報は、日本周辺で約10万ケースにも及ぶ地震断層を想定した津波数値シミュレーションのデータベースをもとに発表されます。この津波予報は日本の海岸を66の区域にわけて情報を出していますが、県内で1区域という所もあります。津波という現象は、海底地形や湾の形状により、同じ予報区の中でも津波高が倍になることもある現象ですので、現在の津波予報区では地域ごとに十分に詳細な情報であるとは言えません。しかしなが表津波予報の種類(気象庁HPより)

ら、津波から避難することを考えると、大きな地震の後、約3分で出される津波予報は、避難行動のきっかけとして有効に活用できる地域もたくさんあります。

今後、津波予報の精度向上も期待されますが、どんなに精度が上がったとしても、その情報を受けて避難する人がいなければ、被害軽減につながりません。津波情報は津波の危険性を知らせる重要な情報です。津波警報が出た時には安全な場所へ避難することを徹底し、たとえ津波が小さかったとしても、「いつか来るかもしれない大きな津波への訓練ができて良かった」と思える心構えが大切です。

2006年11月15日と2007年1月13日に千島列島沖で地震が発生し、津波警報が北海道・東北地方沿岸部等に、沿岸地域には避難勧告が出されました。この際、実際に避難所へ避難した人はわずかだったと言われています。これは、これまでに出された津波予報よりも実際に観測された津波が小さいことがたびたびあったため、津波予報に対する信用が低下しているからだと指摘されています。

予報の種類		解 説	発表される津波の高さ
津波警報	大津波	高いところで3m程度以上の津波が 予想されますので、厳重に警戒してください。	3m、4m、6m、8m、10m以上
/丰/汉言牧	津波	高いところで2m程度の津波が 予想されますので、警戒してください。	1m、2m
津波注意報	津波注意	高いところで0.5m程度の津波が 予想されますので、注意してください。	0.5m

[参考] 津波予報・津波情報について http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/index_tsunamiinfo.html 津波予報区分について http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/index_t-yohokuinfo.html

災害対策専門研修について

人と防災未来センターでは、地方公共団体の防災職員などを対象とした「災害対策専門研修」を平成14年度から実施しています。

現在までで受講者は延べ1,400人程になり、また募集定員を上回る応募をいただいたりと、研修への信頼性も増しています。

本研修は、阪神・淡路大震災を含めた全ての自然災害の経験や教訓、当センターを含めた研究機関の知見や知識などを基に「今後起こるべき自然災害に

向けた実践的な研修」を実施し、人材を育成することで全国自治体の防災力を向上することを目指しています。

平成19年度「マネージメントコース」をはじめ、テーマや目的を絞った特設コース「図上演習・広報マスコミ」などを実施していきます。



ワークショップ風景

災害対策専門研修 マネージメントコース「春期」

ベーシック	平成19年5月28日~6月1日(5日間)

エキスパートA 平成19年6月4日~6月8日(5日間)

エキスパートB 平成19年6月11日~6月15日(5日間)

災害対策専門研修マネジメントコース「秋期」

ベーシック 平成19年10月15日~10月19日(5日間)

エキスパートA 平成19年10月29日~11月2日(5日間)

エキスパートB 平成19年11月5日~11月9日(5日間)

アドバンスト 平成19年11月12日~11月14日(3日間)

※その他特設コースなどの日程については、確定次第、ホームページ(http://www.dri.ne.jp)に掲載予定です。

「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、積極的に利用して防災対策の大切さといのちの尊さを学習しようとする人々の親睦を深め、センターと連携しつつ、社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立されました。

どなたでも入会できますので、たくさんの方の入会を お待ちしています!



会員特典

- 1.センターへ無料で入館できます。
- 2.センターの最新情報が手に入ります。
- 3.友の会のイベントに参加できます。

年会費

個人会員 3,000円

法人会員 一口 50,000円

郵便振替:00940-2-160211

口 座 名:阪神·淡路大震災記念

人と防災未来センター友の会会



[人と防災未来センターニュース] Vol.21

発行/阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

お問い合わせ先

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構



❷ 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 総務課/ TEL.(078) 262-5060 観覧案内/ TEL.(078) 262-5050 ホームページアドレス/ http://www.dri.ne.jp/

●開館時間 9:30~17:30(入館は16:30まで)

臨時間 9:30~17:30(人館は16:30まで ただし、7~9月は9:30~18:00

(入館は17:00まで)

金・土曜日は ~19:00(入館は18:00まで)

●休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日) 年末年始の12月31日と1月1日

※ゴールデンウィーク(4月28日〜 5月5日)期間中は無休

●入館料金(団体は20名以上

	防災未来館		ひと未来館		両館			
区分	個人	団体	個人	団体	個人	団体		
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円		
高校·大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円		
小·中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円		

※兵庫県内の小・中学生はココロンカードを提示すれば無料。 障害をお持ちの方及び兵庫県内在住で65歳以上の方 は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかるもの を提示ください。

交通マップ



■交通 鉄道/阪神「岩屋駅」「春日野道駅」から徒歩約10分・ JR「灘駅」南口から徒歩約12分。 阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。

バス/JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」 から約15分。 神戸市営バス

| 三宮駅前から約1時間間隔で運転。 | 阪神電鉄バス

三宮駅前から約30分間隔で運転。 /阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分、 阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、 阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場(普通車100台駐車可能)このほか 近隣にも有料駐車場があります。

■バス待機所

予約制/無料

観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。

平成19年2月発行